

林惱煩遊

時報
2021.7

お盆の法要

左記のとおりお盆の法要をお勤め致します。

七月十六日（金）

午後四時のお座

午後六時のお座

混雑を避けるため一法座

定員25名とし二座、お勤め致します。ご参詣の方は必ず
事前に電話でご予約下さい。

お盆の期間

七月十三日より十六日

八月十三日より十六日

右記が一般的なお盆の期間となります。しかし土地によって期間の違いがありますので七月中旬より八月いっぱいまで、ご自宅、お寺でのお盆の読経を承ります。

尚、伺うお家が多いのでご希望の方は早めにご連絡ください。（事前連絡なくご参詣頂いても留守の場合門扉を閉めています。）

初盆で無地の提灯を飾られた方は法要当日お寺に収めてください。お焚き上げします
住職

順正寺電話 03-3996-2064

右は午前9時より午後6時まで

それ以外緊急の場合は

080-5464-9136

お盆の迎え方

浄土真宗では仏となられた亡き人はいつでもどこでも私と共にいらっしやるわけですから、お盆と言っても特別なお迎えや飾りつけは必要ありません。しかし、忙しく生活している現代人は常にそのようなことを感ずることは難しいのが事実です。そこで各家庭でお盆という行事を行い、せめてその間だけでも亡き人と共にあることを確かめましょう。

お盆を迎えるにあたって

*お内仏（お仏壇）をきれいにお掃除しましょう

*岐阜提灯等（置き型の回転灯ろう）があれば飾りましょう。

*お供え物は、お盆棚（ナスやキュウリに足をつけて飾る）は必要ありませんが何か好きだったものをお供えなさるとよいでしょう

*その他ご出身地方にそれぞれ習慣等あると思います。故郷に思いを馳せ、なさる事も大事です。

*僧侶と一緒にお経をお勤めし、ほとけさまの思いを頂きましょう

コロナ禍の二度目のお盆です。

「この一年半、地獄のような、餓鬼道のような、そんな気分だけ。もう飽きちゃったよ、コロナ禍コロナ禍」なんて冗談半分のお盆に過ぎません。

さて、お盆は以前も何度か書きましたが「孟蘭盆経（うらぼんきょう）」という経典が根底にある法要です。

孟蘭盆経はこんなお話。お釈迦様の十大弟子に神通力（過去現在未来を通して一切世界を見渡す力）が特に優れた目連（もくれん）という方がいらつしやいました。で、目連さんがある日、その神通力で亡くなられた母親を訪ねていったのです。すると、なんとお母さんは「餓鬼道」というところに落ちて逆さ吊りにさせられていたのです。餓鬼道とは、地獄の次にきつところ、悪行なしたものがいく所と言われています。目連さんはびっくり！人間として生きている間、なにも悪いことをしていない、それどころか周りからも尊敬されていた、自らも尊敬していた母親が、なぜに餓鬼道へ！そんなもんで、焦ってお釈迦様に相談しに行きました。「そりや、雨季が終わる最後の日にみんなに集まってもらつて、みんなに布施（法を説く）をしなさい。そしたら救われます」といわれ、その通りしましたら、お母さんは救われた、というお話です。で、ここから読み取れるのは、色々あるのですが、以前は、親が子を育てていくには、どんなに素晴らしい優しい人であろうが、餓鬼道に落ちるようなことをしなければ、育てられない。それほど思いで育まれた自分であることに感謝しましょう。というようにことを書かせてもらったのですが、今回は違

った視点から。

目連さんには、お母さんが餓鬼道に落ちてしまつて逆さ吊りにされているように見えてしまったのです。それは、目連さんの中にある迷いの目が見せていたのです。実は逆さまになっていたのは目連さん自身であり、餓鬼道に見えたのは、自らが餓鬼道にいたから、すなわち、餓鬼と成つたのは、母親ではなく、目連さんの方だったのです。

地位・名誉・金を得て、上から目線で「お前らは哀れだな」なんて有頂天になつて、差別して、なんか全然楽しそうでもなく苛つきながら、全く満たされず、怯えながら実は生きている、なんてことがあります。で、彼が見下していた人たちのほうが幸せに楽しく生活して、満たされて生きています。実は見下している方の彼こそが地獄にいた、なんて感じですかね。で、救われたのは、そこに気づいた目連さん自身であり、餓鬼道だとばかり思っていた母親のいたところは実はお浄土でした、ということですよ。

ま、いる場所がどこかで、見方も変わるし、自分が地獄に、餓鬼道にいますという認識なしに、浄土をみれば、浄土ですら地獄に見えてしまうことも在り得るということですよ。また、目連さん目線でこの経典を読むか、母親目線で読むかで読み方も変わります。どちらが正しいということではないのです。どちらも、大事なことを伝えてくれます。大事なものは、自分の都合の良いように読まないようにすることです。基本、何でも、私たちの目は、自分の都合の良いように物事を見がちです。そんな私であるからこそ、気をつけることが大事なのです。

副住職

盆踊り考

毎度のことであるが書けない。パソコンの前に座って考えるからいけない事に思い至り散歩に出た。体を動かせば脳も刺激されると何処かで聞き齧った。歩き始めて30分程は何も出てこずというか、あれやこれや有るのだが、それが上手く繋がらず後頭部のあたりでモヤモヤと凝り固まって居たが暫くするとほぐれてきた。と言っても元から有るものが大したものではないので別段素晴らしいものが書ける事は無い。

そういえば散歩するなんて1年ぶりだ。最初の緊急事態宣言では通っていたスポーツスタジオも休業になり、しようがないので石神井川や千川上水の源流、河口を目指し散歩していた。ちよつとしたマイブームだがすぐ飽きてしまうのが私の特性である。すっかり忘れていた。ヨシ！快調な書き出しだ。散歩は偉い！

久しぶりに石神井公園を散歩して気づいた事は赤松が少なくなり代わりにメタセコイアだと思いが大きな杉が増えたこと。まあ木が成長するには何十年もかかるから相当前からそうだったに違いない。気づかなかっただけだろう。さて突然だが石神井と言えば赤松である。石神井中学の校歌は草野新平先生が「アカマツの林の彼方、見晴るかす富士の夕映え」と高らかにうたっている。かつて公園の周りはアカマツ林に

広い庭の屋敷が多かった。半世紀も過ぎると自然も風景もすっかり変わった。

脈絡なく本題。最近サボっているがYouTubeで「ほぼ毎日言の葉カード」と言うのをアップしている。サボってはいるがやめていないので、していると言い張ってみる。その6月のカードに

「人間は命が終わると「死者」として生まれる。「死者」が生まれると同時に、「死者と共にある生者」もまたうまれてくる」とあった。

そう、散歩効果でこれが盆踊りと繋がるのだ。

去年からコロナウィルスの影響で盆踊りも中止の憂き目にあっている。まあ、子供が大きくなってから行くことはなかったし、自分が子供の頃も特段熱心に行った覚えもない訳だがこの時期になると何処からともなく風に乗って聞こえてくる音頭と太鼓の音は夏の風情として好きだ。一番印象に残っているのは学生時代に北海道の小さな漁村でたまたま出会った盆踊りで東京の住宅街の狭い空き地と違い広い広場に大漁旗が幾竿も掛けめぐらされ昼間は閑散と見えた町がそこだけ賑やかに、でも人は東京のように大勢いるわけもなく何となく静かな盆踊りで、今でも忘れられないある種幻想的な風景であった。その盆踊りだが起源は様々推測されている。一般

的には仏教のお盆に関連する行事と言われている。古くは空也上人や一遍上人の踊り念仏が原型ではないかといわれ、それをたどると天台宗の修行である常行三昧不断念仏が基であろう。不断念仏はお堂の中心に座す阿弥陀如来像の周りを7昼夜とか30日とか90日とか期間を決めひたすらお念仏を唱え歩く行である。空也、一遍はそれをお堂から外界に、僧から俗者に開放した。この踊り念仏はある種のトランス状態に落ちるのが通常でその快樂も手伝って民衆の間に広まっていく。余談であるがこの手の陶醉時に仏を見たとか特別な体験をしたとか靈験を得たとか覺りと錯覚誤認する者がいるがこれは飽くまで脳の変調、幻覚である。正しい仏教ではそう教える。また、もっと古い起源を推理する説もある。実は私はそちらが好きで、中沢新一という哲学者が近著「アイヌイバー」の中で言及する縄文時代説と言うか日本人、アイヌを含むアジア系民族の本質的な生命観が根底にあるのでは説無論南北アメリカの先住民も同族だ。中沢によると縄文時代の集落は環濠集落と呼ばれ字の通り村の中心には広場がありその周りを円周上に住居や集会場が建てられている。広場は実は墓であり死んだ者はそこに埋葬される。昼間そこは聖域であり誰も入り込まず静寂が保たれる。しかし日暮れてくると人々はそこに集い酒を飲み謡い、踊る。まさに墓の上で死

者と共に宴を開くのだ。そこには命の再生や循環を感じ願う心を推察できる。因みに幼くして死んだ者は家の入口に埋められる。これはそこを毎日またぐ母の胎内に戻りもう一度生まれてくることを願う心がそうさせたようだ。命をひと時の個人固有な事象と捉えず、輪のように途切れることなく誕生と死と再生を循環していると感じていたのか。

常行三昧はひたすら念仏を唱えアミダさんの周りを一方向に巡り続ける。踊り念仏も然り、盆踊りも中心の音曲櫓の周りを踊り回る。子供の頃に読んだ「ちびくろサンボ」という童話が思い浮かぶ。たしか悪い虎は木の周りをぐるぐる逃げサンボを追い続けしまいには溶けてバターになってしまった。溶けると解けるは同義語だなきつと。一心に亡き人に会いたいと祈るとき、一心にお念仏を称える時、一心に踊る時、見栄とか自我欲とか身に纏った余計なものが解けるのかもしれない。解けてしまえば残るのは本質だろう。そして命の本質には彼我の違いは無い、生者や死者の違いもない。誰にでもどこにでも普遍的にあり溶け合う。そこに死者と共に生きる私が生まれるのかもしれない。お盆の妄想。今年は盆踊り開催されるといいな。と言っても私は行かないが。

住職

選挙になるとよく聞く言葉に、投票しても何も変わらないから投票しないと、入れる人がいないとか。投票しなければ変わらないどころか賛成したことになります。悪夢の安倍元総理は投票率50パーセント切った無意味な選挙でも勝った折には国民の信を得たとほざきました。入れる人がいない時は成ってほしくない人の対抗に入れましょう。よく世の中の動きを見てください。「だって今の社会の仕組み上仕方がない」。「自分には関係ない」。「まあ、そこそこやれてるし」なんて寝ぼけているうちに、この国の為政者は、先進国の中で教育費を極端に低くして国民の学力低下を自論みしました。良い兵隊、労働者は自分でものを考えず命令を無批判に遂行する者。要するにロボットが良いんです。また、経済に限らずあらゆる格差を助長して国民の分断を図り孤立させ、団体抗議を成り立たないようにしています。民意を持たない国民を作り、少数意見を嘲笑う一党独裁の日本、ここまでこの国を落としたのは小泉政権以来の自民党政治とそれを図らずも応援した私たちです。めんどくさいかもしれませんがテレビ以外で少し勉強して選挙にいきましょう。 合掌 住職

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。また土曜、日曜に行われる一日葬が増え、その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることがあります。葬儀をお勤めする

ことはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうか寛恕下さいますようお願い致します

定例行事

いずれもご自由にご参加下さい

聞法会

毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）2時間ほど

グリーンケアの集い「微妙音」

八月お休み

毎月5日午後2時より2時間ほど

白色白光の会（婦人会）

毎月第2木曜午後1時

お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

仏像なぞり書き、塗り絵「仏像描くぞう」

毎月、第2月曜午後3時と月の最終日曜午後3時から1時間 参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山 順正寺 東京都練馬区石神井町三十七・四

お問い合わせ。午前9時から午後5時まで

03-3996-2064

それ以外の時間緊急の場合

080-5464-9136